

運転保守状況(備考欄)

1号機

4月27日

原子炉格納容器冷却機 1の定期補機切替のため、C-原子炉格納容器冷却機を起動したところ、電動機の電流値が通常運転時の約55アンペアに対し、約半分の23アンペアであったことから、当該冷却機不調の原因究明を行うこととし、定期補機切替を中止。(中国電力(株)公表済)

5月18日

原因調査の結果、当該冷却機の逆止ダンパ 2の一時的な固着等により発生した事象と推定。なお、当該冷却機については、その後の試験運転で正常に動作することを確認したが、次回定期検査まで予備機とし、健全性確認のため定期的(1回/1ヶ月)に運転を行う。(中国電力(株)公表済)

- 1 原子炉格納容器冷却機：原子炉格納容器内を冷却するために原子炉格納容器内に4台設置しており、原子炉が通常運転中は、この内の3台が稼働している。
- 2 逆止ダンパ：他号機からの逆流を防止するための機器。

6月1日

5月28日、C-復水昇圧ポンプ 3のメカニカルシール 4の機能低下を確認したため、当該メカニカルシールを取替えることとし、B-C号機運転からA-B号機運転に切替え。その後、メカニカルシールの取替えを完了し、6月1日、B-C号機運転に復旧。

(中国電力(株)公表済)

- 3 復水昇圧ポンプ：給水ポンプ入口圧力を確保するため3台設置しており、原子炉が通常運転中は、この内の2台が運転している。
- 4 メカニカルシール：ポンプ内の水がポンプ主軸に沿って外部に流出しないように封じ込める装置。

2号機

5月8日

第14回定期検査のため23時00分発電を停止(原子炉停止5月9日8時04分)

(中国電力(株)公表済)

5月24日

中性子モニタ用ドライチューブ 1,2を原子炉内(全燃料取り出し、制御棒全引き抜き状態)に取り付ける作業をしていたところ、ドライチューブが掴み装置 3から外れて炉内に落下した。落下時に制御棒上部および燃料支持金具 4に接触したが、当該ドライチューブ、制御棒および燃料支持金具ともに健全であることを確認。

調査の結果、原因はドライチューブを掴む際の掴み状態の確認不足によるものと判断。再発防止策として、正常に掴んだ状態が確認できるよう掴み装置にマークを描き、確実に掴んだことをマークにより確認するよう、作業要領書等に明記した。

なお、制御棒は原子炉の安全性に関して直接影響を与える重要な機器であることから、当該制御棒については念のため取り替えることとした。(中国電力(株)公表済)

- 1 中性子モニタ：原子炉内の中性子の量を監視するもの。
- 2 ドライチューブ：中性子モニタを収め、炉内に固定するための管。
- 3 掴み装置：ドライチューブ等を炉内から取り外し、また炉内に取り付けるための治具。
- 4 燃料支持金具：燃料集合体を支える金具。

